

# 布施の心

5

本多 克也

(昭和も)

文・徳永 耕一

## [手紙]

東京に着いて先ず落ち着いた先は、横浜国立大学（横浜国大）近くの安旅館だった。予め大学の紹介で予約していたのだ。

そこは、まるで横浜国大御用達のような旅館で、受験シンズンになると横浜国大受験生ばかりになる。

旅館には共同スペースがあり、そこで受験日までの二日間勉強したが、周囲の受験生は皆、会話の内容が高度で、顔つきまでも頭が良さそうで、時間が経つにつれて自分の考えの甘さがひしひしと感じられてきた。いわば戦わずして負けたような感じだ。

案の定、受験は結果発表を待たずに失敗に終わった。家出同然で出てきた私には、この後のあてなどなかった。

東京は非情な街だ。ど田舎から出てきた「介の受験の落ちこぼれに温情をかける人などいない。それどころか、隙があれば牙を剥く者は星の数ほどいる。

もし私がその怖さを知つていれば、足がすくみ、気持ちが萎え、たちまち固まつてしまつただろう。

しかし、私は状況を理解するにはあまりにも若かつたし、無知だった。そして、生来、物事をよくよく考へない性分でもあつた。

私は、すぐに「手紙」のことを実行することとした。

つまり、宮崎輝先生から田舎を出る時に言われた「何か困つたことがあつたらこれを持って訪ねて行きなさい」という言葉と、手渡された二通の手紙のことだ。

当時、前もって電話をするなどの知恵は思いつくはずもなく、いきなり宮崎輝さんを訪ねて行った。

どうをひつやつて行つたのか覚えていないが、予め調べ



当時の旭化成本社が入る三信ビル(旭化成提供)

2023年3月本多産業株式会社は  
設立50周年を迎えます。

 本多産業株式会社

【本 社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814  
TEL:045-869-1133  
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677  
TEL:0957-38-3520

た有楽町にある旭化成本社ビルにたどり着いた。  
恐る恐る受付で、「宮崎輝様にお会いしたいのですが」と告げると、しばらくして秘書課の課長さんが出てきて、哀れみの目で私を見ながら、切り出した。

「宮崎様はどなたにもお会いにならないよ」

後で分かったことだが、宮崎輝さんの名前は地元では知れ渡っていて、地元からたくさん的人が折々にお願い事などで訪ねて行つたりしていたのだ。また地元だけではなく、仕事の関係でたくさんの方々がお願い事をしに宮崎輝さんを尋ねて会社を訪問していたのだ。しかし、ほとんどは秘書課で止められて、会えることは極めて稀だった。

私は、秘書課長さんから断られた直後に、すかさず手紙を差し出した。

「これを持ってきたのですが」

課長さんは一瞬ためらつたが、達筆で封筒の表に「宮崎輝殿」、裏に「宮崎輝」と書かれているのを見ると、「少し待つていてください」と、奥へ引っ込んでいった。

しばらくして戻つてくると、「お会いになるつもりだよ」と、声も表情もさつきより和やかになって私に伝えてくれた。

そして、「会う前に食事を済ませるように」と、私に食事券を手渡してくれた。

今思えば、食事時にお願い事で相手を訪問するなどはマナー違反の典型だが、当時はそんなことは微塵もわからなかつた。

大きな社員食堂の受付で食券を見せると、一般席ではなく豪華な役員用の部屋に通された。

この時である、人生で初めて、「偉い人になるとこんな风になれるのか」と身をもって知ったのは。

そして、お腹を空かした私は、出された料理を夢中でた

いらげた。